秘閣にてぬくもりくんとつうらうらしく雪ふる
ゆきくくしくしゆきはまくしまりやうの
人よりつゝ旅中にて花ぞ折ゆく島ふくを
よりてゝ尊雲島の古巣にいつるまと
ゆくゝしくたし詮へ

ゆきはは山に卵もりしく水霞の
横よりよ　是ハ水霞の山歌うう
出る僧うくゝ祈いの都とうゝ
祈ゝ廣島五郎よりゝ横夜
水霞の人横ゝ鳴ゝ　思ひ
三尾横宮の宿の雲ゝ
ゆく日ゝ横ゝ横ゝ横ゝ
や鳴の海ゝ思ひゝ
口引雲津の風ゝ
所ゝ雲ゝ思ひ　面白や
ゝ横ゝ横ゝ雲津ゝ
横ゝ横ゝ横ゝ横ゝ神
感ゝ横ゝ

（以思儀やる）

うゝ横ゝ女性の神ゝ
ゝ横ゝ横ゝ横ゝ
ゝ横ゝ横ゝ横ゝ
ゝ横ゝ横ゝ横

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鐘馗

日月 是も唐土終南山の麓に住居せし者
なりしが科挙に及ひ試験に及ひ問
明の帝都に赴く 終南山なる村
出るに少く野草に露ふかき茅村
小燈の人屋に明るく鳥啼て
うつもれて鈴の小舟もかろく浪にほ
とゝぎすのみ聞くく 日月 なつてくらを
成後人に会事叶 日月 仕のあるそ
我は鍾馗と云る進士なるか悪鬼
と云一国山を守らんその為ひとり
君賞人とも給へ官中に有る奇
瑞とかたるきのひの成奏して
給へ 日月 見ハ国風に事の程を
知

久方の人を 日月 今は行末を思へき
我は鍾馗と云る進士なるか身の
きんを七を芸能に成るかゝ
かれのそなり 日月 鍾馗の行末
を陽きあるの進士考くを忘て
ゆるしの中とゆ云れ 日月 ゆ
ゆき 日月 草出露に色
ちらまくに寄めるよりもあく花
阪に絶くくやるかる登に
やれ事も野るもあん色も考の
みなそこの花紅葉のとゝ尾とうそ
ゆとうつくしの 一日は風の前
の雲に同る移りやすく三界小永
きよのあくそりれるきくんや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

項羽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

檜舞慶

是ハ西塔ノ乙護法ニテ住武蔵坊弁慶ト云ケル我宿敵ノ之組ツテ武蔵ノ天狗ヘ毛ノ時ヨリテ仕ケルト日頃ヨリ強ク思ヒ合ケレバ互ニ目ヲ合セテ共家寄ハ互ニ傷ハ[illegible]ケレバ[illegible]ノ天狗ヘ[illegible]ノ天狗ヘ長ケレバ[illegible]ノ明日五条ノ橋ニ面ヲ作ル十二三斗成キ者ハ[illegible]知テ居ル作ル[illegible]ノ[illegible]ノ所ハ[illegible]思ヒ[illegible]

電ノ如ク[illegible]梅ノ木ニ成ル無作ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

四方へ[illegible]名を申しうけ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

野守

草に露をかこちがほなる夜の月をあはれ
くもるかな　是は幽玄の姿にて出たる山伏なり　我大峯葛城を
をがみ奉り　熊野へ参詣して　ほとの宿りまで草枕ゆめ
ゆめとこの起動　夜の眠を今さめ
にけり　夜の月　歌舞を西へめぐる
東の大和国　春の暮　をりをり　春の
野の　我日本　国　
山をも面の里かなしく野守の鏡
ていまさりけり　有るや意想　行
色二笠の山　長岡　五重唯
識の秘の風　春日の里　
滅　
行　歌　
少　唐
宮寺　
仲麿　
二笠の山陰　
春日長岡　

行　寄　八　此前
乃入　春日の里の山　春日野の
聖守　野守　
見に　有　水乃　
あり　社野守の鏡
水　面白や　聖守の鏡
我　春の聖守の鏡
上　春日野の鏡と申
野守の鏡　
鏡と社野守の鏡
乃物　鏡　野守の鏡と
山野に住　鬼乃守が登
人　此野を守　

鬼　塚　
さて　野守の鏡
鬼乃　
渡　
見　
野守の鏡と云事　
謂　野守　
春の山
山　
水乃　
鏡　
鏡　
野守の鏡

[illegible]

張良

[illegible]八漢高祖の臣下張良と云ひしも[illegible]程よりはるかに[illegible]下邳と云ふ[illegible]橋あり[illegible]橋へ行きもくやうに[illegible]

[illegible]橋へと[illegible]五日の夜[illegible]下邳[illegible]橋へ[illegible]張良[illegible]

[illegible]

おき深更に及ぶ山の中に入り霜を
踏み下駄の跡を印して帰る時
霜の白きに月光照り合ひて
渡りしの跡あり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

羅生門

[illegible]

[illegible]

藍染川

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言語道断都[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲雀山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

住吉詣

是は摂州住吉の神宮蓮華園を
行基菩薩と共に建立あり
まれなる霊場なり光源氏の宿所の
子細あるべく當社の末社と伝説
社内に祭る法人なりと云
きよの先世とおぼしき由申侍
と存じ
小車の苔のえもいはぬ
都路の真ふれなるる時代うつり
物見はほまれ社号ふこそ藏光堂
ぬ光源氏ゆかりの松もいまは武君
斬とかきし住吉の社ふ所領
てんとそなふ思ひつつ旅衣落日新
を白鳥の舞ふ恵塚秋の山の

いとあはれなる面影陽炎のゆま
時や関守の常も移りもぬかしたる
ハね屋つあるつ門いおの藻塩
ゆくかの見渡せば落雲まつふて
あるようなる。ほのぶえ山の村
ちぶれやかい野小特著て素ふ光
のうれなる和ゆくえ見渡せば
大江の月よりも浪もおもしろ
住吉の海ふ行ふ
ゆすふこえて深みの船の
もいされすき海ふ浪の隔
ふ代とまりを
神ちちひとるべく
庭ハ結縁ふ
ハ相成道ハ利

物まうでして、勅使・近國・當民・とあれ
ども、心を祈ふ人のとうりうべきく
只今の清上、あ給目出たうの御
い祝言とまうされ、久へいてく祝言
とまうさ、神主・幣帛をまうさく祝
言とまうさ。謹上再拝。敬白神
主・そしめの神楽、八人の八乙女、立
人の神、ふれのこ、舞、うの舞の言、
ちうう、朝の、まうさ、ふ、神楽、
神奇、幣久、の天地、冥國、泰平
諸人、歌、楽、福寿、満ふ、寿、
祝、や、祝、言、可の諸願成就皆
令満足、ガ、祝、や、ま、方、陽、
祝、ふ、ま、ふ、ま、ふ、ま、ふ、ま、ふ、有難き神

ふ、ま、ふ、ま、ふ、ま、ふ、ま、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

谷行より行けて拾ひ出し、[illegible]
きたりしに、つねにうくへ[illegible]
の伝いに病気も強きとおもひ
なきしいそ[illegible]て谷行よりたれ
とやに伝れ相行と仕へ[illegible]
[illegible]行強きなるに[illegible]
月に行傳もやうの時[illegible]社へ
岡山役優婆塞再ふ大聖不動明
王[illegible]行くに[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

半部

昔の都は芳野雲林院に住侍りし頃、
[illegible]
[illegible]

[illegible]

禅師曽我

敷ふ花の名残よりく音ちり
送る風うち日是は曽我の人々
は行へ中宮を国三郎すく抜も兄弟
の人々はるかに子ハ日の後ゆく末
取は悪ひ人々と敵を対をも身もつ
いに討き給ひてはゆ繁花ゆ者とは法
中人々敵ひ人のあくとおもて古人へ下花
ものゆゆすく招よりひ是命を
ゆ歌見を持宿へ今古人へ下りは
使の法て帰りしゆく花とれと
つ敵ひ食ゆ花は斬殺よ海る山是
もゆ花冨士の根ひ煙みへき島の
い出やよ海りう称ゆ行ゆれく

[illegible]初ふ見ていやうや[illegible]の[illegible]
作。[illegible]楽門[illegible]
久ふ楽門[illegible]鬼王殿三郎[illegible]
由夫[illegible]久、何鬼王殿三郎と
[illegible]人迄[illegible]
[illegible]何の為よ[illegible]
作面目[illegible]
[illegible]
[illegible]八日[illegible]
入[illegible]敵と討[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のかた迄追へ迄追へとて長刀投捨
濃州の獵上より走り上りて本をるう
向ひく門畏所ゆ文よつ[illegible]
擂盤のよう[illegible]
とて利鎌と奪鎌金へしもとぶせられ
強金へ[illegible]

くるま僧

[illegible]
[illegible]
[illegible]

奥法師、人々やと思ひ、なつかしく
あまを成人と行ひ作りて、さん作
是に数の者をひかせ、山みの野の花
を取集め、此山ずみ入るに、ひとり
言やうとあき御姿まつかせ山守入人
せ給へ、宮の御入来て海へ、是
こそ花ゆへ、ふ住者なるか、書中の
山ふ日は送ひ、ひとつ、花を女と
さ山野りさ、こもり也、
花の女人、他生の縁といひ、
我も、ものすり、是、而も山路
さ、まれや、見もまぬ人やさ、
なつかしく、ちあ、ちらぬも花の陰す
相宿、てこそ人のぬ、ちる

きて花衣、袖ふれて、木の本に
立寄りいはや詠めん、やや花のり
よ、ゆ、ゆ、ゆ、と長くは義景ようて
花心、釈、袖く、詠の、いさく、
てあるめん、いふ、へ、ゆ、ゆ、ゆ、
よ、家路とまとれ、花、詠めよ、ゆ、
いよく、不審ふ社人、宮御不審
ハ御、ひ、ひ、行、ゆ、ゆ、ゆ、
も我ハ天人なれ、花ふ、ゆ、ゆ、
たりべ、ゆ、ゆ、家ふ、橋、して、信心
と、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、五
節の舞、小忌の衣、羽袖とを、
月の夜越を、ゆ、ゆ、ゆ、
ふ、侍、ゆ、と、ゆ、ゆ、花の陰

ゆく、月の夜越をまつ、ゆ、ゆ、乙女、
姿あ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
と、地陸頻伽の色、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、不思議や虚
空ふ音楽、ゆ、ゆ、異香薫して、花、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、琵琶、和琴、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、鞨鼓や、ゆ、行
の拝、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ、袖、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
と、ゆ、乙女、舞、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
て、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ふ、舞、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、

雲の通ひ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ、ゆ、霞、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、三芳野の、ゆ、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、

大佛供養

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

忠信

[illegible]

[illegible]

てゆ。水戸殿用の事ゆへ世事ありあるとて
つゆ申さず。其て作忠信事
いふ忠信。當山の者ども聞しべく
後討とくきて定て拙者申作義と
角ふ我が我ふ入洲前をひらく〳〵世一
人留り防き戦を敵を後命死食ふ
て後次第 やて追付人 御談長て
家の去なるべき其うゆき行國迄を御
供よ石を立れんひく領人よ行付ら
就ゆへ辞し申去あるべ其時に来
をいや世を乗出うを。
らくの事なり用ゆ世をといふ
て背をしおうを一人撰まれゆ後久
仕まとゆ御後弓矢をての面目お

れ入ふて〳〵べよ去ゆ〳〵我君
を始しゆ皆人〳〵ふ死を残を惜う
べへ〳〵〳〵て後を命御前を
義ふ我を覚ゆ〳〵て時別
〳〵〳〵我君〳〵〳〵
門前を出く家道をひそ〳〵去
の出給へ忠信〳〵〳〵
月明り面をへかまへて命を金ふ
て御供よ来〳〵不忠〳〳〳〳
やを〳〵〳〵〳〵〳〵〳〳〳〳
独りとまる心の便も深加ん
く 吉野川あるまにく強き
義く波おを〳〵風〳〳〳〳
坊へ事申作 〳〳〳〳

まれ事申ゆ〳〳〳〳
〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳
山れ去判官殿の迷ふ〳〳〳〳
〳〳〳〳出て世給へ 荒〳〳〳〳
〳〳〳〳我君ふ思ひ〳〳〳〳
〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳
〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳
〳〳〳〳〳〳

鳥帽子折

[illegible]東の[illegible]くゝ[illegible]くゝん　昔は三條の吉次信重と
我山行綱と変と集め学ぶと吉次
を使ひ只今東へ下るといふ吉次
行きと集めもへ下るもるゝ　細
なるゝ　あまた成[illegible]人興へ下を作て
[illegible]信中山へ　安き間の[illegible]
[illegible]師匠と[illegible]師匠の[illegible]
[illegible]と給ひ[illegible]人と[illegible]て作[illegible]
思ひ[illegible]ぬ事[illegible]　いや我[illegible]
[illegible]母[illegible]師匠の[illegible]當蒙[illegible]
[illegible]給ひて行給へ　洲上八[illegible]延

[illegible]て山[illegible]
牛若山[illegible]
[illegible]　栗田口[illegible]坂の西の宮[illegible]
[illegible]坂の[illegible]の[illegible]の[illegible]
商人の[illegible]
[illegible]の古[illegible]　都の[illegible]
[illegible]今思ひ栗[illegible]
[illegible]
[illegible]野[illegible]山の[illegible]
[illegible]
鏡の宮[illegible]
[illegible]
[illegible]今[illegible]を[illegible]
[illegible]

[illegible]東男[illegible]
[illegible]やと思ひ[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

時、祝言申し、あたらしき門出をいとなみ、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]牛若丸、人々しくなり給ひて、[illegible]の者を
[illegible]給へ主従と[illegible]
[illegible]や東へ[illegible]明行く。月も名残
の新うつる鏡の宿を立出る。[illegible]
[illegible]やうに名を[illegible]の者
人と伴ひ[illegible]
目もあてられぬ[illegible]情[illegible]時代ふ
[illegible]習ふて安宅[illegible]
と更ふ思ひ[illegible]東路の[illegible]
[illegible]
[illegible]を上[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]く[illegible]急ぎ行ふ赤坂の宿ふ着て、
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

興津白浪の[illegible]を[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の如く洗ひ清め天魔鬼神をもたまる宮
殿に帰らしくれ給りへ　うすし盛もい
のちつまて法いけらして給へ　おと
みて　いや鮎坂長花ぞ今夜の夜
討ぬきてんして何くふ面とむきそ臣
責へや若者ぞと大きるとて　ぬりかり
臣とほくつく切て入り　基ぬしやと
ひ打くよく先よりもおしなきりつんま
みとこるとしおくかぶ幡を見あき獨
もみてしきてやーしぬとところふ立く
ぬ伝鬼ぞ　鮎坂の長花六十三く
ぬ自宅設の夜討きしと鎧殿とふぬ
捨五尺三寸の大太刀ぬきりや抽て打
けど大島ぞをかゆーとくくあ面ぬ出

有抜ぬ成天魔鬼神を面をむく紀
抜えなき　わーそうくーや織人よりく
ぬてま面ある夜討ぬとをとも抜ふきけ
かーぬぬらて時間わくきに切て越る鮎坂
を大き刀つくの面者ぬ抜ぬそをとつ
ぬーく十方切八方抜や腰東破ぬのく八
ぬ海ぬ鎧ぬーやきのそうくーなる童
鬼童ぬ切より火を切てぬのとと
刎て戦ひーか秘術ぬ見て大太刀もぬ
曹司のふ太刀ふ切立れ清太刀ふ成てそ
ぬ伝ぬ　ぬ鮎坂ぬ出てけーすー
く組て力ぬ勝負せきて太刀抜
抜くぬ大ぬ度きて魂てーまを貴て
りつぬ雑ぬ切ぬ

ひ多れぬ起ぬんとてぬつ立ぬと出尚
ぬりきぬりつきぬ抜て獨りとれぬ
鮎坂ぬ長花を抜ぬふ抜くそうせ
ぬ

大瓶猩々

昔ハ唐土の秦の始皇の時分
ぬとと民ぬ孝行ぬ親ぬ孝行ぬ
ぬ第ぬ富貴ぬ家とぬ成ぬ
ぬ世ぬいたくぬ酒ぬ買えぬ
ぬ集ぬ酒ぬ買えぬ
てぬぬ氏者ぬと名ぬと者ぬやと
思ひ抜　蓬海のぞとぬと
浪間ぬり顕ぬ出ぬ日新ぬ
ぬの市人ぬ何とぬとぬく来ぬ
味ぬやぬと酒ぬ入ぬぬをぬ酒ぬ
蒙ぬきぬ　琴詩酒とぬとを
てぬ女人ぬぬぬぬぬぬを抜ぬ抜切
ぬを酒ぬ賞ぬぬぬぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海原やさしうしてうしろ
ぶりの
海原やさしうしてうしろ
ぶりの
海原やさしうしてうしろ
ぶりの

海原やさしうしてうしろ
ぶりの

海原やさしうしてうしろ
ぶりの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東方朔

南の海や四時うりの産もくして[illegible]
と夏なれ冷ハまや和秋の百支
の生の春を長くなり帝の御
殿ハまるる殿 あるる花の袖ちる枝
七宝の堂金銀の床よ君をうめ
なし 宸軍ちるく 居ける
遊をなして[illegible]楽をつく
めその[illegible]音の[illegible]見城も
ふいうて溝る[illegible]日君の御
威を広く恵を色なるうやく
[illegible]代の[illegible]
[illegible]君の[illegible]討なり 主賢主

[illegible]代の[illegible]五月の[illegible]やう日[illegible]雨
[illegible]の草木[illegible]
時よ[illegible]
[illegible]ハ微女の[illegible]
秋[illegible]目[illegible]
[illegible]の神も涼き夕方[illegible]
[illegible]稲[illegible]
[illegible]
[illegible]

桃の三千年に一度花咲実なる山
本入仙薬と成り西王母の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世にいたもの[illegible]
[illegible]是を直捨方便のくちぶぶ[illegible]
[illegible]古仏故[illegible]
[illegible]是上求菩提[illegible]
[illegible]
[illegible]宮居[illegible]
[illegible]神[illegible]
[illegible]宮の[illegible]
[illegible]白[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蟻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

自往天二十二大からの作りて常歌
天皇宣あるく千代まで大かりもあり
給りてをくらて界よ宣下も
くて方へ行の前なり天地と空と
て疫鬼を庭中よりくるくるく
まひめること葬送大きなるに
くく疫鬼と天地よ打つとて貢
まへて貢舎利をいとも出きもあ
即まくまくく今打て指よきに葉
天令利で到へ行くくくく今宣
くやこ鬼乃づくくくくく車乃
くくくくくくくくくくくくくくく
まて社うまくまくく

小鍛冶

勅へ一條院より仰くくくくくく
御もと疫帝面俄乃作者まくまく
くくくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくく
宗近と私まくと意くくくくく
宗近と有か宗近とくくくくく
作そ勅へ一條院の勅使くくくく
くくくくくくくくくくくくくく
即まくまくくくくくくくくくく
天令利で到へ行くくくくく今宣
くやこ鬼乃づくくくくく車乃
くくくくくくくくくくくくくく
て作りく宜自身て到へくく
乃作剣をくくくくくくくくく
相鎚をくくくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言語道断一大事を作出されて
仏如の御横力をも神力をも
力とはしてはと陪臣の
祈は稲荷の明神なれば是より

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

汗衫乃ぬの雲てまくしたまひ天に拍掌
さそしかまもあれや天下第一乃ゆく
へ乃鎧乃ゆ剣をさしはめ西海と治めらるへき
五穀成就も山時るまやとれてまう
ぬる氏乃汗猶荷乃神祈か狐乃
勅使よりき申見逆ゆとりし捨て
ぎふもして雲に孤業ちもしてもに
天ひ音くまりし山ぶるりれ琴まそ
かえりきれ

石橋

昔天竺のさきとかとりて寂照法
師そて作、新入唐帰天、諸く彼方
山方とわそ巡りて今音涼山と云
ひ所に住て居る石橋をく有まな
智くんとまりの春寿橋乃橋をそうう
まやとあり　杜風の死て霜と映を
ゆくぬ電をそうまく山路乃　山路か
日暮ぬ樵歌牧笛ぬ人間乃事移
乃世界をうりゆ乃有れ乃ゆくに
きれ眼の前　陸をやはるる
乃ゆりに山を遠くきて雲と沉て立へて
入ぬ乃ゆを見乃ゆく谷れりて雨
ふりぬるかをうまくれ乃ぬ誤つ

て半日乃寂たりしとぬ乃ゆ乃
きりうく　門乃小見ぬ山人乃音
乃きりぬ　行乃ゆ乃ぬ
見ぬ乃愛ぬ石橋をくう乃ゆ
ふれ社乃橋をくれ乃ゆ乃ゆ文殊乃浮
出ぬ乃ゆ乃ゆ能ゆ乃ゆ乃へ橋乃
石橋をくれ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
を乃乃ゆ乃ゆて乃橋を流乃ゆ乃ゆと思
ひ乃　智乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
高僧達乃ゆ乃行者乃捨乃ゆ乃ゆて
愛乃ゆ乃月見を遠乃ゆ乃ゆ社橋を
乃ゆ乃ゆ　御乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六浦

是日ゆうさえ遠くあゆまつ
きびしく物さびたる見入海陽乃遥より
ながめ渡らるれば神奈川をも見
作れば洲崎ながら陸奥れよ
よくも修行をやとゝ思ひ遣
場乃開れ数もうてにぐく
行かるゝ水海れ舟ゆを漕ぎ
ちかく葦ゆ乃草陰ゆ漕ぎ
うらゝと星月夜鎌倉山を眺めて
六浦乃里ゆ漕ぎ寄せ
れ行く一宿ゆ泊まりぬ
うくと思ひ作れる日なれば
て身作れば見いまや相模國ゆ

を作れて國ゆ見入部より始め
て詩一見れ去ぬ山ゆ
國とゆ
一光と見景を作れよ審をお
し作へ
て作れ行く錄倉乃中四言詩
と申し人家をこゝろ
に詩り給ひ時ゆ乃紀業
をもりし作れ
深くゆ
為相卿れ
ゆ
ゆ
ゆ

古紀詞を深く信じ今に品墓と面
向して順常盤木のごとし也、是を
不思議の仕事かけ木の心とうた
まくゝ老の身の涙に身なくく
いかるべくまくまゝに今を何
をうたゝ山ゝ新るけ木の精多
の所僧堂のもとに西に花咲冷
顕まを為ゝ人とこ者八家よ藏居
きくゝ花もすゝ法を説給ゝ童
て梁を見元申さと夕都入
も冷しく古寺入庭の西者入
雛入者沙ゝ梅の花を花分
て行おとしきゝ花ゝ多ゝ
黄ゝ行おとしきゝ花ゝ多ゝ
可かんゝ心よ叶ゝ藤名のゝ法乃

聲も松風とせやゝ更ゝ秋の夜乃
月沈沈ゝ庭ゝ面ゝ
やゝく美有ゝの洲吊盆家者
ちくれ忘ゝよ者れゝ一度家よ者
たゝ者ゝ者ゝ給ゝ者ゝ
ほゝ川沈ゝ庭の西ゝ
女ゝ人ゝ者ゝ者ゝ見え
孤ゝ者ゝ者ゝ士養沓ゝ
ゝ者の時ゝ者ゝ
ゝ給ゝ丈四季折ゝ乃
ゝ者ゝ者ゝ時ゝ者ゝ
くゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ

誘ふ人乃心や春ふ四ゝ山ゝ人ゝ梅の
花盛乃雪と入ゝ三吉野の
乃花に者ゝ者ゝ者ゝ月日経ゝ後
者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ梅八散ゝ庭
乃面ゝ者ゝ花ゝ者ゝ者ゝ乃花乃垣
根や草ゝ波ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
なき村時雨者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ

松山鏡

昔、[illegible]の郡に松の山家と申す所に住居仕る者の[illegible]娘を[illegible]年の頃十七、八の時、母に[illegible]と二人物[illegible]に参りて[illegible]と願ひ申すよ[illegible]と日[illegible]の[illegible]日[illegible]に[illegible]雲[illegible]雨[illegible]時[illegible]花[illegible]月[illegible]月[illegible]三[illegible]

げ[illegible]娘[illegible]と申[illegible]有り[illegible]者[illegible]参り[illegible]娘[illegible]毎[illegible]時[illegible]世[illegible]毎[illegible]娘[illegible]世[illegible]男[illegible]二[illegible]

作り[illegible]言[illegible]申[illegible]願[illegible]母[illegible]娘[illegible]母[illegible]娘[illegible]母[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金札

風を吉のふかぬ国のなく
さ無根草のとゝ[illegible]　柳是八植
武天皇の仕給ふ所也　扨も山城
国愛宕郡の子の杉と立直給ふ
去年金うみさうの国の国紙
見の里の大官作りの[illegible]の勅定
紙幣の唯今紙見かゝ内仕作
[illegible]きゝやいたゞかぬ洋まつ
陰の抜居て[illegible]の時
神の告を[illegible]
[illegible]の国[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]と祈と君[illegible]
やく扉と[illegible]札の神[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]八百万代の[illegible]
悪魔降伏の[illegible]の月弓　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]頼光保氏[illegible]

[illegible]

[illegible]

知章

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俊成忠則

加賀の国に武蔵国の住人、因幡の介なる忠澄とて、桜町の帝の御宇、西海の合戦に薩摩守忠則と組みうちして、忠則、家綱の長庵、五条の二位俊成卿と、和歌の御値遇の由、聞し召され、短冊の懸物、てまり、俊成の目に懸るやとおぼしめして、業平の、

世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

と、忠澄、忠則、

世の中にたえて桜のなかりせば

と、

痛りや忠則、彼戒むさし、武蔵の国の住人、因幡の介なる忠澄とて、桜町の帝の御宇、西海の合戦に薩摩守忠則と組みうちして、家綱の長庵、五条の二位俊成卿と、和歌の御値遇の由、聞し召され、短冊の懸物、てまり、俊成の目に懸るやとおぼしめして、業平の、

世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

と、忠澄、忠則、

世の中にたえて桜のなかりせば

と、

きかりよ、俊成、千載集に一首、

忠則、

憲重荷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

者とのひとへかは程なくまたくれ[illegible]
癖のつまりしれぬよはれぬもとゑ得
[illegible]
[illegible]
[illegible]

礎

是は九州戸屋の行基うつし給ふ
そのあるようり在京仕候初
在京しなへて面無之ふかく
是は舊郷のあるかたくに程と
ぶつつひとり雪とりあつまりて
思ひ作いつとり雪ひまりよ古里
ふるとるくは程ぶとしてとしぬへ
此年の雪よ降りくるとはなりて
ふくへ繰りとしぬへ此ぬらし
ぶりあるとあるう
程の
柳の夜の日を清をすくしつくり雪
の宮のん夢も教そうりわ
らして祈りるく戸屋の雪のよ

きわく急ぎ行よ戸屋の雪まるん
ぶく業四を申ひまるるいたる郷
四人郷のうり雪のうるる中ん
文殊菩薩の金の光りは立ひる思ひを
悲ひぼくの柳の夜よりるひと隔つる
うれ弁ひまりて深き修行の中間
しぶたる義と草我を義行とか
るく油よ作きる涙の雨の晴間帰る
心の郷雪のまりたる由をひく
ひとく行雪の雪申ぶ途のあるの
此方へ雪作へいるう雪りて
うあり作や人法ひう雪作ひく
此の作るよりぶくやるひうりまりて
ぶひんやくりと春りうくりひ作きる

ぶるやつひの隔をるるて
三年は郷ようりひる行郷と
むとの作るやり思ひ雪を
花望なくはるもの作るよ
ぶるひるるひそう郷の
住居よ秋の雪へ目も草を
繋りも絶るの行と頼まひ
ゆくを三年の秋の雪るる
ぶるはそのるくはるるとぶて
砂よ弾りまはひるう師るの
やるるりひぶさ雪るりまるるる
べ雪るるの作るうるるるる
をるるのまるるやと思るる
きや行郷雪あるるよ雪るるる

ぶのひあきは行ひく作ひ
里人の礎るる音るる
月はるるるるるの思り出て
作るやるるる小藏武るるく
郷周とやんよ捨るるるぶる黒
るるるる作周やみ武雪は寝え
と思る雪ひぶる樓よりるる礎るる
武の雪はるるるる高里は秋
藏武の捨寝よ郷の礎ぶるるて
ぶるるも思はや武はぶひぶる
られるるるるやの雪作礎るるて
とるくるのまるるやと思るる
あるる賜るるあるるるるて
去るるる作心武雪はるるるる
きやるるるるるるるるる

[illegible]

數の行[illegible]

[illegible]

[illegible]

いふ中にやこゝろと大きまゐりて作沈奉の言ふとにくる

[illegible]

[illegible]